

授業概要

明治に入る前までの、日本文学の大まかな姿を捉えることを目標とする授業である。文学に興味がある学生、自分はなぜ今感じているように感じているのか、に興味がある学生、昔の人はどのように感じてそれをどのように表現していたのか、その移り変わりについて知りたいという学生、あるいは国語の教員免許の取得を目指す学生に受講してもらいたい。

「文学〈史〉」という流れだけではなく、それぞれの時代の代表的作品の一端に触れることが出来る授業を心掛けるつもりである。

授業計画

第1回	時代区分 「古典」とは
第2回	中古の文学（1）和歌とは 『古今和歌集』
第3回	中古の文学（2）和歌の系譜（1）
第4回	中古の文学（3）物語の系譜 『伊勢物語』から『源氏物語』へ
第5回	中古の文学（4）『枕草子』、※『日本霊異記』
第6回	上代の文学（1）『万葉集』
第7回	上代の文学（2）『古事記』、『日本書紀』
第8回	前半のまとめ
第9回	中世の文学（1）和歌の系譜（2）、『方丈記』・『徒然草』
第10回	中世の文学（2）『今昔物語集』、『宇治拾遺物語』
第11回	中世の文学（3）『平家物語』、『義経記』
第12回	近世の文学（1）俳諧の系譜
第13回	近世の文学（2）井原西鶴と近松門左衛門
第14回	近世の文学（3）国学
第15回	後半のまとめ
第16回	定期試験

到達目標

江戸時代末期までの日本文学の大まかな流れと、それぞれの時代の代表的な作品についての理解が出来るようになってもらうことが目標である。

履修上の注意

出席は毎回取るが、出席していれば単位を出すという授業ではないので注意してほしい。

予習・復習

資料としてプリントを配布し、複数回の小テストを実施して定着を図るようにするつもりである。

評価方法

定期試験（80パーセント）、小テスト及び受講態度（20パーセント）の割合で総合的に評価する。

テキスト

最初の授業において、指示する予定である。